



被災地出張授業 活動報告

～5年間を振り返る～



東北支援活動「IPPO IPPO NIPPONプロジェクト」(寄附金総額約22億円)では、被災地における人材育成の観点から、主に被災した専門高校に対して実習機材の提供等を行ってきた。さらにプロジェクトでは、経済同友会が以前から実施している会員(企業経営者)による出張授業を被災高校に展開することとした。

企業経営者が被災高校の生徒や教員と人的・心的交流を行うことにより、物質面のみならず精神面での支えになれたらとの思いで取り組んできた出張授業は、2012年度に4校、2013年度に11校、2014年度に6校、2015年度に10校、2016年度に7校と、延べ38回実施することができた。

出張授業では地域経済の担い手である生徒たちへ、「働くとはどういうことか」「社会で求められる人材」等をテーマにそれぞれの企業経営者が熱いメッセージを伝えてきたが、こうした活動も2017年1月をもって、一区切りを迎えることになった。

そこで、これまでの「IPPO IPPO NIPPONプロジェクト」による出張授業の活動をまとめて紹介する。

学校名	開催日時	講師/テーマ(役職は開催時)
岩手県立大船渡東高等学校	2013年12月	古川 紘一(森永乳業 相談役) 「1.日本の農業・酪農・乳業のこれから 2.皆さんの将来に期待すること」
	2014年12月	小枝 至(日産自動車 相談役名誉会長) 「働くということ ～社会人として大切なこと～」
	2016年1月	馬田 一(JFEホールディングス 相談役) 「次の時代を担う皆さんに期待すること」
	2017年1月	徳植 桂治(太平洋セメント 相談役) 「自分発見への旅立ちへの挑戦」
岩手県立釜石商工高等学校	2012年8月	小枝 至(日産自動車 相談役名誉会長) 「働くということ 社会で求められる力とは」
	2013年9月	北城 悟太郎(日本アイ・ビー・エム 相談役) 「これからの社会で求められる人材」
	2014年12月	遠藤 勝裕(日本学生支援機構 理事長) 「高校生の今、考えておくべきこと、やっておくべきこと」
	2015年11月	日比谷 武(富士ゼロックス 顧問) 「皆さんに期待する」
	2016年12月	立石 文雄(オムロン 取締役会長) 「私の人生での“学び”」
岩手県立久慈工業高等学校	2013年9月	小枝 至(日産自動車 相談役名誉会長) 「働くということ～社会で求められる力とは～」
	2014年10月	野路 國夫(コマツ 取締役会長) 「世界の変化とコマツの取り組み」
	2015年10月	志賀 俊之(日産自動車 取締役副会長) 「修羅場を呼び込め～世界で通用するプロを目指して～」
	2016年10月	馬田 一(JFEホールディングス 相談役) 「次の時代を担う皆さんに期待すること」
岩手県立久慈東高等学校	2012年11月	北城 悟太郎(日本アイ・ビー・エム 相談役) 「これからの国際社会に生きる君たちへ～生きがいのある人生を送るために～」
	2013年10月	杉江 和男(DIC 取締役会長) 「働くこととは～社会で求められる人材～」
	2015年1月	浦野 光人(ニチレイ 相談役) 「高校生に期待する ～自己改革を図る～」
岩手県立高田高等学校	2015年12月	日比谷 武(富士ゼロックス 顧問) 「皆さんに期待する」

生徒の感想

社会人とは、自分で道を定めることだと聞きました。社会を変えるには、常に自分の心の声に従い、自分自身で判断するのが良いと考えました。

(2016年1月 岩手県立大船渡東高等学校)

「一隅を照らす」という言葉に感銘を受け、自分も社会人になったら家庭や職場で精いっぱい努力して輝く人になりたいと思います。

(2012年8月 岩手県立釜石商工高等学校)

人生の中での修羅場や壁から逃げずに挑戦することによって、自分の目指している目標より高いところに行けることを学びました。

(2015年10月 岩手県立久慈工業高等学校)

働くということは、自分のためにも誰かのためにもなる、素晴らしいことだと思いました。

(2012年11月 岩手県立久慈東高等学校)

仁・義・礼・智・信(五常の徳)の大切さを知りました。自分もこのような人間になれるように心がけたいです。

(2015年12月 岩手県立高田高等学校)

他人の人生をまねるのではなく、自分なりの生き方を見つけ出していきたいです。

(2015年11月 岩手県立種市高等学校)



岩手県から「IPPO IPPO NIPPONプロジェクト」に感謝状

去る2月3日、達増拓也岩手県知事および高橋嘉行教育委員会教育長が経済同友会を訪れ、小林喜光代表幹事らと面談した。

達増知事からは「IPPO IPPO NIPPON プロジェクトによる実習機材の寄附などにより、震災前と同様、あるいは震災前より進んだ勉強ができる環境になっている。被災地の子どもたちが前よりも強く育ち、日本に貢献できるものを身に付けられるような復興を果たしたい」と感謝の意が述べられるとともに、岩手県からの感謝状および寄附先の専門高校生徒が製作した感謝の品が届けられた。



右から、高橋嘉行 岩手県教育委員会教育長、達増拓也 岩手県知事、小林喜光 代表幹事、横尾敬介 専務理事、藤巻正志 執行役。

学校名	開催日時	講師／テーマ(役職は開催時)
岩手県立 種市高等学校	2015年 11月	種村 均(ノリタケカンパニーリミテド 取締役会長) 中部経済同友会 代表幹事 「人間としてどう生きるか」
岩手県立 宮古工業 高等学校	2015年 12月	菅田 史朗(ウシオ電機 取締役相談役) 「若い皆さんへのメッセージ」
	2017年 1月	日比谷 武(富士ゼロックス 顧問) 「未来に生きる皆さんへの応援メッセージ」
岩手県立 宮古商業 高等学校	2012年 12月	杉江 和男(DIC 取締役会長) 「働くこととは」
	2013年 10月	星野 佳路(星野リゾート 取締役社長) 「観光立国への道」
宮城県石巻北 高等学校	2015年 1月	古川 紘一(森永乳業 相談役) 「社会で求められる力とは?」
宮城県気仙沼 高等学校定時制	2013年 10月	前原 金一(経済同友会 副代表幹事・専務理事) 「働くとは何か～働くためにはどのように学習をするのか～」
宮城県 気仙沼向洋 高等学校	2013年 12月	杉江 和男(DIC 取締役会長) 「働くこととは～社会で求められる人材～」
	2015年 9月	浦野 光人(ニチレイ 相談役) 「高校時代に何をすべきか ～自己改革を図る～」
	2016年 11月	日比谷 武(富士ゼロックス 顧問) 「未来に生きる皆さんへの応援メッセージ」
宮城県 白石工業 高等学校	2015年 11月	立石 文雄(オムロン 取締役会長) 「私の人生での“学び”」
	2016年 11月	菅田 史朗(ウシオ電機 相談役) 「次代を担う皆さんへのメッセージ」
宮城県 水産 高等学校	2013年 12月	浦野 光人(ニチレイ 相談役) 「高校生に期待する ～自己改革を図る～」
	2015年 10月	杉江 和男(DIC 相談役) 「社会で求められる力」
	2016年 12月	武藤 光一(商船三井 取締役会長) 「1.日本の海運業について 2.楽しく働くには」
宮城県 農業 高等学校	2013年 1月	浦野 光人(ニチレイ 取締役会長) 「社会人への入り口」
	2014年 1月	古川 紘一(森永乳業 相談役) 「1.日本の農業・酪農・乳業のこれから 2.皆さんの将来に期待すること」
	2015年 10月	木川 眞(ヤマトホールディングス 取締役会長) 「これからの時代に求められる人材像」
宮城県東松島 高等学校	2014年 1月	山岡 建夫(JUKI 最高顧問) 「これからの社会で求められる人材」
宮城県 巨理 高等学校	2013年 12月	重山 俊彦(キッコーマン 取締役) 「志と『日就付将』」
	2014年 12月	杉江 和男(DIC 取締役会長) 「自立・協働・創造」

生徒の感想

講義を聴いてみて、一番苦しいときや逃げたくなるときこそ、そこから努力や挑戦をすることが大事だと思いました。

(2015年12月 岩手県立宮古工業高等学校)

温泉旅館で働くことが決まっているので、この地域らしさを忘れず、おもてなしの心を大事にしながら頑張っていきたいです。

(2013年10月 岩手県立宮古商業高等学校)

私は地元で就職しますが、外国人の方々と接する機会が増えてくると思うので、たくさんの人とコミュニケーションが取れるように努力したいと思います。

(2015年1月 宮城県石巻北高等学校)

1日1時間の勉強を社会人になってもするのは大変だけど、勉強する時間をつくることによって心に余裕ができそうだと思います。

(2013年10月 宮城県気仙沼高等学校 定時制)

勉強は学校で終わりではなく、将来も学び続けることが大事だと分かりました。

(2016年11月 宮城県気仙沼向洋高等学校)

成功者はただ成功したのではなく、努力の末に成功への道が開けたのだということが伝わってきた。自分も若いうちにたくさんの方にチャレンジしようと思った。

(2015年11月 宮城県白石工業高等学校)

一人で何もできると勘違いして、周囲の人に迷惑をかけてしまっていたということに気がきました。今後はしっかり「みんなに支えられている」という認識を持ちたいです。

(2013年12月 宮城県水産高等学校)

講義を聴いて、ぼくは社会に出たときに認められる人になりたいと強く思いました。

(2015年10月 宮城県農業高等学校)

日本人としての座標軸を大切に伸ばしていきたい。国際的な人間が必要だと分かりました。(2014年1月 宮城県東松島高等学校)

仕事とはお金のためと考えていたけれど、自分のため、家族のため、地域、日本、世界のためと知ることができました。プロ意識を持って期待される人材になりたいです。

(2014年12月 宮城県巨理高等学校)